

●Topics…～循環器内科の最前線～TAVI 100症例超／山形初、Watchman治療開始／新技術導入の紹介  
 ●取組案内1…放射線治療科 ●取組案内2…放射線診断科

附属病院の最新の医療を紹介する広報誌VOL.17が出来上がりました。これを機会に当院の医療を知っていただき、地域のリソースとして有効に活用していただければと思います。

Topics

## ～循環器内科の最前線～

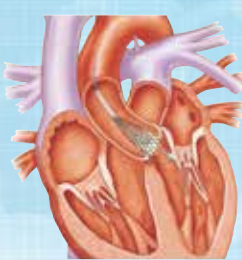
### より低侵襲かつ安全に 大動脈弁狭窄症を治療する

高齢者や併存疾患を多く有する大動脈弁狭窄症の患者さんに対する、経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI, 図1)が2020年3月に100件を超えました。対象の患者様は、平均85歳と高齢ですが、心臓リハビリにも力を入れ、手術の翌日から歩行、術後10日で90%の方が自宅退院できております。引き続き安全な治療を心掛けて参ります。

図1



<バルーン拡張型生体弁>

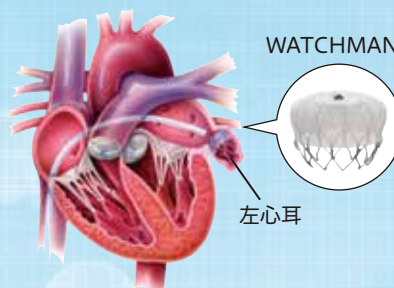


<自己拡張型生体弁>

### 抗凝固療法が難しい 心房細動の患者さんのために

2021年2月より経皮的左心耳閉鎖デバイス(WATCHMAN, 図2)留置術を開始しました。心房細動では、血栓予防のために抗凝固薬を投与しますが、出血で内服できない場合があります。この手術では、全身麻酔で鼠径部からカテーテルを挿入し、左心耳を閉鎖します。術後、抗凝固薬を中止できることが多く、出血と脳梗塞の危険性を下げることができます。

図2



WATCHMAN

左心耳

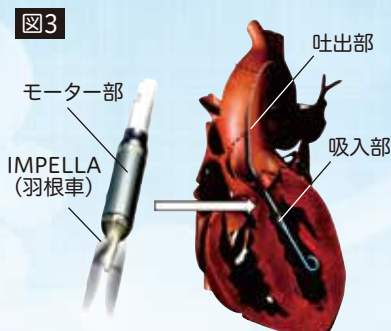
### 迅速で安心な循環器治療を目指して

(1)超音波センター開設:専門医・技師による集学的指導体制、検査技師増員、院内エコーの一元的管理が整備されました。待機期間なく心エコーを受けられ、迅速な診断に役立てております。

(2)補助循環用ポンプカテーテル(IMPELLA, 図3):心原性ショックの患者さんにおいて、鼠径部の動脈から挿入できる補助循環機器です。全身臓器に速やかに血液供給を再開できるため、救命率の向上につながっています。

(3)経静脈電極抜去術(Evolution, 図4):ペースメーカー感染症では、本体もリードも全て抜去が必要です。カテーテルを使って、リード癒着を剥離、抜去できる機器が使用できるようになりました。

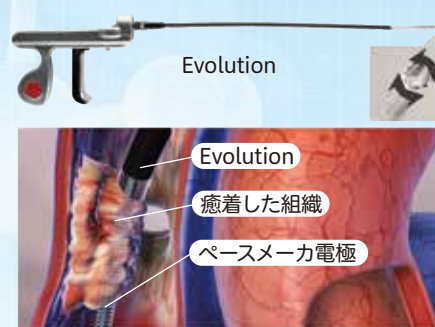
図3



モーター部

IMPELLA (羽根車)

図4



Evolution

Evolution

癒着した組織

ペースメーカー電極

いずれの治療も、多職種スタッフから構成される「ハートチーム」の連携が欠かせません。チームワークは、我々が得意な分野です。これからも患者さんに応じた最新治療を提供して参ります。

## 取組案内 1

## 放射線治療科

# 令和3年4月から保険診療による前立腺癌の重粒子線治療が始まりました

平成27年度より飯田キャンパスに整備を進めてきた山形大学医学部東日本重粒子センターですが、令和3年2月末に前立腺癌の治療を行う固定照射室をオープンし、施設基準届け出のための12症例の治療を経て、この4月から保険診療による前立腺癌の重粒子線治療を開始しました。

限局性の前立腺癌は、多くの場合で重粒子線治療の適応となります。週4回計12回の治療が3週間で終了するのも大きな特徴です。当院の地域医療連携センターに予約申込をいただき、予約当日は、泌尿器科と放射線治療科を受診していただきます。県内からも多くの患者さんをご紹介いただき、この5月には250例を超える申込をいただいております。

前立腺以外の部位については、回転ガントリー照射室で治療を実施します。回転ガントリーとは、患者さんの身体を傾けることなく、360°どの方向からでも重粒子線を照射するための装置です。同室では、頭頸部や骨軟部腫瘍などの呼吸性移動の小さいものから治療を開始する予定で、肺や肝臓のように呼吸性移動を伴う臓器についても準備を進めております。

現在の公的保険適用は、前立腺癌、頭頸部非扁平上皮癌、頭頸部悪性黒色腫、鼻・副鼻腔・聴器原発の扁平上皮癌、骨軟部腫瘍であり、それ以外は先進医療の枠組みになります。重粒子線治療の適応について、迷われるような場合があれば、当科までお気軽にご相談ください。



東日本重粒子センター 回転ガントリー照射室

## 取組案内 2

## 放射線診断科

# 他診療科と連携 ～画像診断と画像下治療～

### 【画像診断】

CT、MRI、核医学検査、PET検査による画像診断を主に行なっています。特に、MRIは増加するニーズに対応すべく“フレックス枠”として早朝および夜間の検査を行なっており、様々なライフスタイルの患者さんの検査に対応しています(ただし、自立移動可能な方の単純MRI検査に限ります)。

PET検査は主にFDG-PETを行い、がん診療に役立っています。当院では県内の関連施設から多くの症例をご紹介頂き、PET検査を行っています。PET画像と放射線診断専門医が作成した画像診断レポートを主治医の先生方に送付しております。

### 【画像下治療】

### Interventional Radiology (IVR)

当科では他科からご紹介頂いた患者さんに対してIVRを施行しております。切除対象とならない肝臓がんに対して、肝動脈化学塞栓療法を行っています。山形県は肝臓がんの罹患率が全国最低となっていますが、まだ患者はゼロではありません。

ん。本療法が肝臓がん治療の一助になっております。

また、耳鼻咽喉科・頭頸部外科と放射線治療科と連携して、超選択的動注化学放射線同時併用療法を行っています。腫瘍の栄養血管にカテーテルから直接シスプラチンを動注し、同時期に放射線治療を行い、腫瘍縮小を図るものです。上顎洞がん、舌がんなどの頭頸部がんが適応になり、腫瘍制御や整容面において良好な結果を得ております。



放射線診断科症例検討会の様子